

徳島市民病院における災害訓練

橋本 佳世子

1. 実施日 平成27年9月26日（土）

2. 参加内訳及び人数

医師：25名

看護師：42名

その他（事務、薬剤師、検査技師等）：64名
計131名

3. 実施回数 年1回

4. 想定 震度6強の地震、傷病者受け入れ決定

5. 構成

①講義、デモ、机上訓練（グループ討議）

②受け入れ訓練

③反省会





情報を仕入れたところ、病院に災害対策本部が
できたようです。

・家でテレビ、NHK、らぶらぶ徳島を見
ようとしていた人も病院に自転車で来て、

・外果や病院の敷地が敷き詰められた
CSCA（）がう行動
がはたして行動に





講義での問いかけ

- 自宅にいたら、どうしますか？
- 勤務中であれば、どうしますか？
- 受け入れ決定、ではエリアはどのように設置しますか？
- 人の配置はどうですか？役割は？
など

【自宅にいた時】

①自身・家族の身を守る

②情報収集

何から？ テレビ、ラジオ、携帯電話、インターネットなど

何を？ 場所、タイプ、危険性、アクセス、津波などの2次被害の有無など

③行動の決定：津波警報が出ていなければ震度5強で参集

- ・自身、家族の安全を第一とする
- ・数日間の飲料水、食糧を持参し、交通手段は徒歩、自転車、バイクなど
- ・出勤可能となった時点で速やかに出勤する

④出勤後は対策本部に集合

参集カードを記入し、本部の指示を待つ

【勤務中に起こった時】

①自身、スタッフ、患者の安全

②二次災害の予防

③避難の必要性：避難準備、経路の
確認

訓練開始



対策本部へ行き、参集カード
を記入



アクションカードを受け取る



チームビルディング























【参加者の意見、感想】

- ・ トリアージの意味は知っていたつもりだったが、実際に短時間でするのは難しかった
- ・ トリアージタグの記入が追いつかなかった
- ・ チーム移動で補佐に入った時、すぐに動けなかった
- ・ 医師、Logの人たちとの連携の大切さを痛感した
- ・ 情報の優先性や伝達など、混乱してしまった
- ・ 頻繁に伝令をしたので後半、きつかった
- ・ 年1回ではなく、数回行ってほしい
- ・ 押し寄せる負傷者のクレーム対応が難しかった
(緑エリア)
- ・ 治療が院内でどこまでできる状況なのか、後方搬送はどうなのか、などの情報の伝達が随時必要だと感じたなど

【問題点と今後の課題】

- ①訓練内容や機会の検討:ルーチン化を避ける
- ②病院のとるべき対応の全体像やスタッフ各々の役割や行動の周知、教育の必要性
- ③職員間で、災害への危機感や訓練の必要性に対する認識に温度差がある

ご清聴ありがとうございました